

# 編集後記

8月8日の鹿児島市の集中豪雨では特に霧島市と始良市では断水、床上・床下浸水などの甚大な被害を出し、土砂の撤去など猛暑の中での作業が続く中、再び線状降水帯に見舞われました。豪雨被害の1日も早い復旧を願い、被災されたみなさまにはお見舞い申し上げます。

「誌上ギャラリー」には尊田和徳先生から「曼珠沙華（ヒガンバナ）の里『巾着田』」をご投稿いただきました。500万本の彼岸花からなる「赤い絨毯」とはさぞかし圧巻でしょう。

「論説と話題」には、「第16回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会」におけるCOVID-19関連演題、在宅医療ケア移行の取り組みなどの議論、「第56回九州地区医師会立共同利用施設連絡協議会」での医師会病院部門、検査・検診部門、高齢社会事業部門での協議と、松本吉郎日本医師会会長と福岡市博物館の中野等館長の特別講演、「第69回九州ブロック学校保健・学校医大会、令和7年度九州学校検診協議会（年次大会）」の学校検診協議会各部門別の教育講演、九州ブロック学校保健・学校医大会分科会での講演などについて報告されました。

「学術」には鹿児島医療センター病理診断科の野元三治先生から「当院にて診断されたT細胞大顆粒リンパ球性白血病（T-LGLL）について」をご寄稿いただきました。T-LGLLは非常に稀な疾患で、日常診療において遭遇することが少ないため疑われることもほとんどなく、正確な診断に辿り着くことが困難な疾患とのことです。T-LGLLの概要と病理組織学的診断の要点について詳述されています。

「医師会病院だより」は緩和ケア科のご紹介です。市内唯一の公的病院の緩和ケア科として24時間体制で入院に対応し、部長の馬見塚勝郎先生がた4名の医師で運用されています。また訪問診療の先生や訪問看護ステーションとも連携し、疼痛コントロールや

心理的ケアにも精通した看護師も所属する病棟の活動が報告されています。

「随筆・その他」は栗博志先生の連載「音楽の散歩道 その10-4」と、リレー随筆には鹿児島医療センター中村佳帆先生の「あなたの推し活は何ですか？」です。推し活がもたらす効果について、心理的、社会的、文化的、経済的など多角的な視点で分析がされています。今や「推し活」は現代社会のライフスタイルとして定着しつつあり、今後はさらに多様化して生活と密接に関わり「推し活ダイバーシティ時代」が到来しそうです。

「各種部会だより」には、「第5回鹿児島市脳神経外科医会総会・講演会」での会長の時村洋先生による保険診療について、「鹿児島市産婦人科医会総会・研修会」での飯尾一登先生の保険診療についてと鮫島浩継先生の梅毒合併妊娠について、「鹿児島市医師会学校医会研修会」での性教育認定講師・助産師の山崎真子先生の思春期の性の現状について、「鹿児島市刀圭会夏季例会」での鹿児島レブナイズ代表取締役社長 COO 有川久志様のスポーツビジネスとの関わりやレブナイズでの取り組みについてなどの、各種のご講演や楽しい懇親会などが報告されました。

「鹿市医狂壇」では皆様のご投句をお待ちしております。

今年の夏も暑い日が続きました。連日、日本列島各地での体温を超える危険な暑さが報道され、40度超えの気温も記録されました。「地球温暖化」の影響が大きく40度超えの世界は当たり前になってきているのではとの指摘もある様です。海に囲まれた鹿児島の夏は、せめて昔ながらの「普通に暑い夏」のままであってほしいものです。日頃から水分を摂って熱中症予防を心掛けたいと思います。

（編集委員 森岡 康祐）